

平成6年3月12日(土) ~ 5月8日(日)

愛するわが子のために
ひとがたから人形へ



狭山市立博物館

狭山市稲荷山1-23-1 稲荷山公園(ハイドパーク)内
電話(0429)55-3804(代表) 西武池袋線「稲荷山公園駅」から徒歩3分

ごあんない

3月3日の上巳の節供（雛祭り）、5月5日の端午の節供は、五節供のなかでも人々の生活に定着した代表的な年中行事です。

上巳の節供、端午の節供には、親が子どもたちの誕生を祝福し、丈夫に元気良く、やさしい子に育つようにと願いが込められているのです。

狭山でも初節供には甲の親や親戚から人形を贈る慣習があります。雛人形・五月人形たちは、子どもたちと一緒に過ごし、わざわいや穢れ、病氣から守ってくれていました。しかし、この代表的な年中行事も核家族化、住宅事情の変化、子どもの減少などにより、今は飾られることが少なくなってきました。

今回の企画展では、市内、周辺地域をはじめ、各地で伝え残されている人形にスポットを当て、人形づくりの街「狭山」にある古い人形や、また市内では見ることのできない貴重な天児・童子・享保雛・百々雛・籠飾などを展示、紹介します。

この企画展を通して、忘れかけられている年中行事を後世に伝えたい気持ちとともに、子どもたちを見守り大切にされてきた人形のすばらしさを感じてもらいたければ幸いです。

講演会 ◇ 「心の文化 ひなまつり」

講師 笛吹人形記念美術館館長

日本人形玩具学会学芸部長

西澤 形一氏

日時 4月3日（日） 午後1時30分～（終了後、展示解説があります。）

会場 研修・講義室

聴講希望の方は3月15日から狭山市立博物館へ電話でお申し込みください（定員50名）。

実演会 ◇ 「人形のできるまで」（3月・5月人形）

実演 日本ひな人形協会員

日時 4月10日（日） 午前10時～、午後1時30分～

会場 舞い舞いホール

体験学習 ◇ 「折り紙で人形をつくろう」

講師 狭山市立狭山台図書館職員

中庭 淑恵氏

日時 3月27日（日） 午前10時～、午後1時30分～

会場 体験学習室

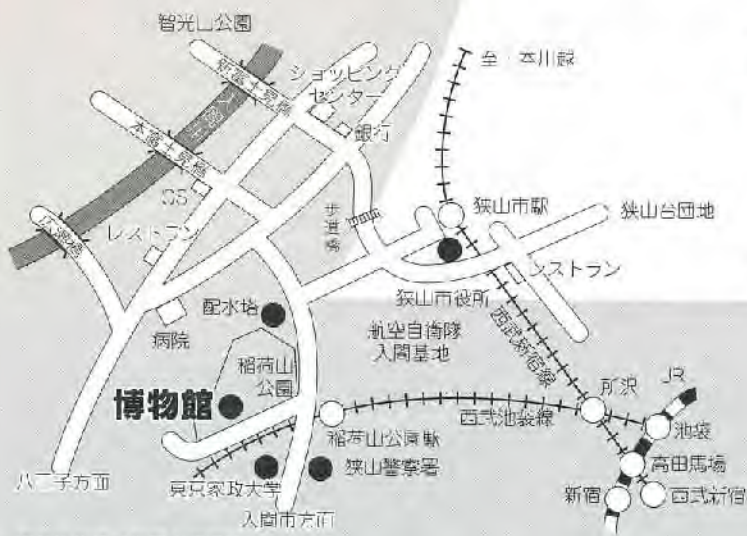
参加希望の方は3月15日から狭山市立博物館へ電話でお申し込みください（定員 午前・午後各30名）。

◇ 「若武者になろう」（甲冑の着付け）

日時 5月5日（祝） 午前10時～、午後1時30分～

会場 舞い舞いホール

受付は当日30分前に開始します（定員 午前・午後各15名）。



西武池袋線「稲荷山公園駅」徒歩3分。

西武新宿線「狭山市駅」西口より、バス《稲荷山公園駅行》終点下車徒歩3分。

利用案内

入館料 ◇大人150円（100円）

高校生・大学生100円（60円）

小学生・中学生50円（30円）

（ ）内は、20人以上の団体

開館時間 ◇午前9時～午後5時

休館日 ◇3/14（月）、22（火）、25（金）

28（月）

4/4（月）、11（月）、18（月）

22（金）、25（月）

5/2（月）、6（金）



笛吹人形記念美術館所蔵

展示会協力者 (順不同・敬称略)

- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 宮野 ミト | 早川 一彦 | 駒井 広 | 小沢 孝志 |
| 岡野 一男 | 富本 淳子 | 金子 朝子 | 石川 年一 |
| 田中 一男 | 川島 揚子 | 高富 弘 | 樋泉 清 |
| 原田 幸一 | 奈良 清一 | 白倉 福彦 | 斎藤 寒一 |
| 杉田 文平 | 青木 直道 | 山谷あや子 | 水越 昇 |
| 平沼 洋一 | 奥田ひろ子 | 石川 兎久郎 | 栗原 広美 |
| 田島 哲司 | 神田 端仁 | 倉島 昇 | 斎藤 貞夫 |
| 鈴木 宗重 | 岡部 昭典 | 岡野 正平 | 山下 時治 |
| 松村 恒春 | 土金 英作 | 松岡 泰造 | |

笛吹人形記念美術館
 狭山ひな人形協会
 埼玉県立博物館
 埼玉県立民俗文化センター

展示資料一覧

展示コーナー	展示資料	員数	展示コーナー	展示資料	員数
人形	二偶(複製)	1	狭山の人形	隨身	7
	天堦輪	1		御殿雛	5
	天堦尻	1		高砂	6
	這子	1		春駒	2
歴史的・伝統的人形	立雛	1		流し雛	1
	寛永雛(写真)	1		木目込人形	1
	享保雛	1		木目込人形	1
	有職雛(写真)	1		(七段飾り)	
	次郎左衛門雛(写真)	1		犬箱	1
	古今雛	1		立雛	3
	京風雛	1		はまぐり	1
	段雛	1		(おしどり)	
	李王朝鎧飾	1		五月 座敷のぼり	6
	白馬	1		神武天皇	7
金太郎	1	金太郎	2		
獨土人形	各地の人形		加藤清正	6	
供え物	草餅(複製)	3	甲冑	1	
	ひし餅(複製)	2	鐘遣	10	
	さくら餅(複製)	2	八幡太郎	4	
	かしわ餅(複製)	3	五月人形	14	
	はまぐり	3	八寸雛	1	
節供	雛あられ	2	だき樽	2	
	短冊	10	人形のできるまで		
狭山の人形	節供掛軸(三月・五月)	15	頭づくり(写真)	1	
	三月 雛人形	47	(製作工程資料)		
	五人囃子	8	三月人形(写真)	1	
	三人奴	4	(製作工程資料)		
	雛道具	6	五月人形(写真)	1	
	藤娘	6	(製作工程資料)		
	神雛	18	無い無いホール		
	三寸五分雛人形	1	御殿飾り	1	
	三月人形	15	三月・五月人形	15	
	雛人形(七段飾り)	1	稚児鑑	1	
	象牙雛	1	大人用鑑	1	
	はまぐり雛	1	鯉のぼり	1	
三人官女	7	お内裏様とお雛様	2		
		藤娘	1		
		鐘遣	1		

期間中、一部展示替えることがあります。



笛吹人形記念美術館所蔵

開催にあたって

3月3日上巳の節供（雛祭り）、5月5日の端午の節供は、五節供のなかでも人々の生活に定着した代表的な年中行事です。

上巳の節供、端午の節供には、親が子どもたちの誕生を祝福し、丈夫に元気良く、やさしい子に育つようにと願いが込められているのです。

狭山でも初節供には里の親や親戚から人形を送る慣習があります。雛人形・五月人形たちは、子どもたちと一緒に過ごし、わざわざや穢れ、病気から守ってくれていました。しかし、この代表的な年中行事も核家族化、住宅事情の変化、子どもの減少などによって、今は飾られることが少なくなってきています。

今回の企画展では、市内、周辺地域をはじめ、各地で伝え残されている人形にスポットを当て、人形づくりの街「狭山」にある古い人形や、また市内では見ることのできない貴重な天児・道子・享保雛・古今雛・鑑飾などを展示、紹介します。

この企画展を通して、忘れかけられている年中行事を後世に伝えたい気持ちとともに、子どもたちを見守り大切にされてきた人形のすばらしさを感じ取っていただければ幸いです。

最後に、今回の企画展開催にあたり、貴重な資料を快くご出展を賜りました所蔵者の方々、ご多用の中をご指導、ご協力を賜りました関係者の方々に対し、心より厚くお礼を申し上げます。

平成6年3月

狭山市立博物館
館長 久保田福造

人形

人形ははじめ、木や土、石、藁などで作られ、神や精霊が宿るものとして神聖視されたり、人間の身代わりとして病気や災いを背負わせたり、安産、五穀豊穰を祈るといったまじないを目的としたものが多かったようです。

その人形も、時代とともに宗教的なものから遊び道具として子どもたちに与えられるようになりました。



①土偶



②人物埴輪

①②埼玉県立博物館所蔵

縄文時代の人形である土偶（写真①）は、飾りや玩具などではなく、生産や収穫などを祈願する呪術的な信仰の対象でした。

古墳時代にみられる人物埴輪（写真②）は、殉死にかわって作られたとされています。

奈良時代、人形は「にんぎょう」と呼ばれず、人間の身代わりとして病気や災いを背負う「ひとがた」（写真③）と呼ばれていました。

現在でも、この「ひとがた」で身体を撫でることで穢れを祓い、川に流す慣習があります。

平安時代には、「ひとがた」から生まれたとされる「形代」が人間の身体をかたどっているところから人形の祖型となりました。この「かたしろ」の代表的なものが、「あまがつ」「ほうこ」（写真④）です。

また、この頃子どもの遊び用の人形で、男女をかたどった「ひいな」がありました。



③ひとがた



④あまがつ(左)ほうこ(右)
④笛吹人形記念美術館所蔵

室町時代になると「あまがつ」は宮廷貴族の間に、「ほうこ」は庶民の間に幼児の穢れを祓う人形として普及していきました。

また、「ひいな」は雛人形として発展していきました。この頃から、「人形」という言葉が一般に用いられるようになりました。

江戸時代になると人形も精巧なものが作られるようになり、信仰用具から愛玩、鑑賞用のものに発展し、綺麗豪華な雛人形や五月人形が生まれました。

祭り行事としても盛んになりました。

明治時代から大正時代にかけては、雛祭りが一般家庭にも普及し、様々な雛人形も作られるようになりました。

昭和時代、特に後半は雛人形も生活環境の変化などにより、大きな段飾りからケース入りのコンパクトなものなど多様になりました。

また、社会風俗、世相、時事問題などを題材とした人形も作られるようになりました。

郷土人形（写真⑤）は、きれいですばらしい人形を買うことができなかつた人々が、手にはいるいろいろな素材を使って作った人形です。

そこには、庶民の上巳の節供・端午の節供へのおもいが込められています。



⑤郷土人形

⑤笛吹人形記念美術館所蔵

狭山の人形

雛人形 狭山市内では、雛祭りを月遅れの4月3日に行う家が多かったようです。

これは、供え物に欠かすことのできない草餅を作るためのヨモギが3月ではまだ小さくて摘めないためでした。

この日は雛人形を飾り、桃の花やハマグリ、ひし餅、白酒などを供え、夜になるとボンボリに灯を入れて祝いました。

また、雛祭りは女の子の成長を祝う行事であるとともに、農作業の作神様としてとらえる家も多く、練雛（写真⑥）が毎年飾られました。



⑥練雛

五月人形 狭山市内では端午の節供を月遅れの6月5日に行う家もありました。しかし、この時期は養蚕が盛んになり、忙しい時期にあたるので、大正時代から5月5日に行われるようになりました。

鯉のぼりは、現在では、外に飾ることが少なくなり、座敷のぼりという家の中に飾るのぼりが多くなってきました。